

【創刊 2013 年 1 月 25 日】

北海道熊研究会事務局 北海道野生動物研究所

代表 門崎 允昭

事務局長 Peter Nichols ピーターニコルス氏

幹事長 藤田 弘志 氏

Tel 011-892-1057

ご意見やご連絡は、次の email へお願い致します
(kadosaki@pop21.odn.ne.jp)

- 会報の 1～129 以前の号は Website に「北海道野生動物研究所」と入力し、ご覧下さい。
「北海道熊研究会」の Facebook と Twitter の編集は横山敬子氏が当たります

Facebook : <https://www.facebook.com/HokkaidoBearResearchAssociation>

北海道熊研究会」Hokkaido Bear Research Association の活動目的

熊の実像について調査研究し、熊による人畜及びその他経済的被害を予防しつつ、人と熊が棲み分けた状態で共存を図り、狩猟以外では熊を殺さない社会の形成を図るための提言と啓発活動を行う。 この考えの根底は、この大地は総ての生き物の共有物であり、生物間での食物連鎖の宿命と疾病原因生物以外については、この地球上に生を受けたものは生有る限りお互いの存在を容認しようと言う生物倫理(生物の一員として人が為すべき正しき道)に基づく理念による。

「北海道野生動物研究所」のホームページもご覧下さい

日本での熊問題は以下の 2 つで有る

問題の① 人が熊の生息地に行って、熊に襲われる件。

問題の② 人の生活圏（農地放牧地など）に熊が出没して、
人的経済的被害を与える他、住民に不安を与える件

熊問題の① と、その予防策

これには ホイイスルと鉈を携帯し、

自分が熊に気づかれる前に、自分が先に、熊の存在に
気づくような歩き方をする事です。

熊問題の② と、その予防策

これについては、有刺鉄線柵を張り 熊の生息圏と人の居住圏
を分離する。それ以外に、有効な対策はない。

張り方は、有刺鉄線を、地面に1本と、地面から、40cm 間隔で
4本張る。

これを行えば、＜日本の熊問題＞市街地への熊の出没や
農地や放牧地等への熊の出没と被害は総べて予防できます。

＜熊が人を襲う場合の特性＞

銃で撃ち損じた人間（猟師）には、その人間が死に至るま
で、その人の顔を攻撃すると言う特性がある。 要するに、
猟師の顔面＝己を害した銃と熊は解するのである。

（詳述は本篇の後半で述べます）

熊は銃で撃ち損じた猟師以外に対しては、刃物で反撃され、己の身体に少しでも血が出る様な傷を受けると、人を襲うのを止める特性があります。

これは、私が 1970 年から 1994 年迄に生じた、熊に因る人身事故 94 件の分析から得た知見です（門崎允昭 著 北海道のヒグマ問題 ）。

また、熊が一般人を襲う時は、抱きついて襲うと言う特性があるので、柄が長い槍のような刃物は不適で、銃以外では鉈が最適です。

アイヌは、熊のそういう特性を熟知していて、隣の家に行く場合でも、槍ではなく、タシロ（鉈と同様の刃物）を持参したと言います。萱野（アイヌの民具 p25-27 に記述がある）。

現在道では職員が熊が居る様な場所に行く場合には、鉈の携帯を、義務づけていると言います。

こういう事を、道民に啓発していない事は、道民不在の行政と言うべきで、けしからん事です。

<熊問題の②の詳細>

熊が里や市街地や放牧場、農地、果樹園、養魚場等に出没して、住民に不安や被害を与える事の対策

すでに述べたように、出没防止柵を張れば良いのです。これを実施すれば、人の生活圏での熊問題ないし熊騒動の熊問題は総べて解消されるのです。

なぜ、それを、熊問題に関与している者が、言わないのか、私は不思議でならない。私は公共事業として、国なり、道が実施すべき対策であると、解して居り、早期の実施を強く求めたい。

北海道で行政に関与している連中は徒党を組んで、熊の個体数調査と称し、熊の体毛と採取して、DNA 調査を行い続けているのである
(道では 2012 年から実施し、今だに、それをのみ、行っているのが実態である。これは、道費を特定の者の飯の種に供給し続けて居る
と言う事で、極めて、不当な公費の無駄使いであると、世間に私は声を大にして、言いたい。

今年（2025 年）道内で人が熊に襲われた事件
今年（2025 年）11 月 1 日迄に、北海道で発生した熊による人身事故 4 件と、人家への侵入事件 1 件について述べる。

<人身事故 4 件とは>

① 美唄市で、4 月 3 日に、鹿撃ち行った織田幸雄さん 77 才が、鹿撃ちに行き、熊と遭遇して、熊を銃で撃ったが、撃ち損じて、熊に逆襲され、左目を失明する重傷を負った。 7 月 30 日の道新の記事では、書かれていないが、門崎は、銃を発砲して、撃ち損じて、熊に逆襲されたと確信している。そうでなければ、熊が織田さんの顔面を攻撃することは、先ず有り得ないからである。

② 7 月 13 日に、渡島管内福島町で、午前 2 時 50 分頃、新聞配達中の、佐藤研樹さん 52 才が、市街地で熊に襲われ、山林に引きずり込まれ、身体が食害されたと言う痛ましい事件が発生した。この事件は、人の日常的な生活圏で生じており、道政に責任があると、私は看取している。なぜならば、この熊は事件を起こす前に、事件発生地付近の市街地に出没していた事実があったのであるから、その時点で、市街地に、再出しないように、電気柵を張る等の、出沒抑止策をすべきなのに、それを行わなかった事に因る人災と私は看取している。 私は道に責任があると解して居る

③ 知床の羅臼岳で、この 8 月 14 日に、熊に襲われ身体の一部を食害される事件が発生して居る。襲った熊は母子の母熊で体長 140cm, 体重 117kg で、子熊は体長雄が 71cm、雌が 72cm で、体重はいずれも 17kg だと言う。

事件の詳細 8 月 14 日午後 1 時過ぎに、羅臼岳の標高 550m 地点で、曾田圭亮さん（26 才）が、親子熊の母熊に襲われ、藪に引きずり込まれ、殺され、身体を喰われる事件が発生した。襲った原因は熊が、被害者を襲って直ぐに、己が好む藪に被害者を引きずり込み、直ぐに身体を喰って居る事から、最初から被害者を食べ物として、喰う為に襲ったものである。

もし、被害者が鉈を持参していて、それで反撃していれば、生還し得たと私は看取している。

④ 9 月 26 日、午後 7 時 55 分頃、札幌市西区平和丘陵公園で犬を連れて散歩ちゅうの男性 43 才が熊に遭遇し、右手を負傷したと言う。

熊が人家に侵入した事件

① 三笠市幾春別川向町の川向町団地 1 号棟の

平屋建の窓ガラスを割って、熊が侵入したので、81 才の妻が掃除機を持ち、床に叩きつけたところ、熊は開いていた玄関から、走り出て入ったと言う

道が推奨する熊対策は誤りである

道が刊行し、現在も道民が入手できる、

パンフレットには、クマの攻撃は 30 秒から 1 分で終わるため首の後ろを手で覆い、地面に伏して、頸部や後頭部への致命傷を防ぐという方法を勧めてが、妄言で言語道断と言いたい。

これが妄言である事は、以上述べて来た事例でお分かり戴けたと思う。

熊は学術的に見れば、トラやライオンと同じ猛獣類で、時に人間を食べ物として、襲い喰うことも異常ではないのです。ところが、行政がクマ対策として奨励している対策はクマよ

けスプレーを携行して、いざという時は噴射せよと言う事ぐらいである。

「熊除けガススプレー」は、本気で人に襲い来る熊には、全く無力で、熊はガスで吹きつけられていても、人を襲い続ける。

それは次の事例でも明白である。

2023 年、10 月 13 日 16 時半頃、阿寒町在住の高橋和寿さん 52 歳が阿寒町シュンクシタカラ湖で、釣りをし終えての帰路で、襲い来る熊にガススプレーで、応戦したが、すぐに熊にひつように攻撃され、片目失明し、さらに肩等を噛られる等の重傷を受けた。

道では、未だに熊が襲って来たら、「腹ばいになって伏し、死んだ振りをせよ」と、死んだ振りをした姿図まで入れた、熊対策としては、

全く間違った。＜既に述べて今回の人身事故 4 件＞
を読めば分かる通り 啓発冊子を、道民向けに、刊行し配っているが、言語道断である。

(了)